

研究業績説明書

法人番号	77	法人名	熊本大学	学部・研究科等番号		学部・研究科等名		埋蔵文化財調査センター
------	----	-----	------	-----------	--	----------	--	-------------

1. 学部・研究科等の目的に沿った研究業績の選定の判断基準【400字以内】

本センターは、「熊本大学に所在する遺跡を発掘調査するとともに、出土した埋蔵文化財を記録・保存および活用し、もって本学の教育・研究に寄与することを目的とする」組織であるため、研究内容が本センターの発掘調査に資するものであるという点が最も重要である。また熊本県における研究であるという地域的特性も考慮される。これらを踏まえ、それが考古学上で高いレベルの研究であり、普遍性を備える研究成果であるという判断基準で研究業績を選定している。

2. 選定した研究業績

業績番号	細目番号	細目名	研究テーマ及び要旨【200字以内】	代表的な研究成果【最大3つまで】	学術的意義	社会的意義、経済的意義	判断根拠(第三者による評価結果や客観的指標等)【400字以内。ただし、「学術的意義」「社会、経済、文化的意義」の双方の意義を有する場合は、800字以内】	重複して選定した研究業績番号	共同利用等
1	3305	考古学	日本および周辺アジア諸国における植物種実や昆虫資料を基にした植物利用史の研究 考古遺跡から検出される炭化種実や土器圧痕資料(種実・昆虫)資料を収集し、その同定基準の見直し、出土資料の再検討などを行い、縄文時代～弥生時代の植物利用と栽培植物の起源と展開について論述したもの。	①Hiroki OBATA, Aya MANABE, Naoko NAKAMURA, Tomokazu ONISHI, Yasuko SENBA 2011 A New Light on the Evolution and Propagation of Prehistoric Grain Pests: the World's Oldest Maize Weevils Found in Jomon Potteries, Japan. 電子科学ジャーナルPLoS ONE②小畑弘己 2011『東北アジア古民族植物学と縄文農耕』, 310頁, 同成社	S S		②は第25回浜田青陵賞(2012年9月30日 朝日新聞・岸和田市)、第6回九州考古学会賞(2012年11月24日 九州考古学会)、第3回日本考古学協会奨励賞(2013年5月25日 日本考古学会)を受賞した著作である。縄文時代においてダイズやアズキの栽培が開始されていたことの検証はこれまでの学史を大きく書き換えるものであり、考古学全体に対する影響は大きい。また、日本国内ばかりでなく、ロシア、中国、朝鮮半島などの資料も加えた広い視野のもとに東北アジア先史時代の栽培史を捉えた点でも高く評価される。		